

第40回
福島県児童・生徒木工工作コンクール
表彰式

開催日時 平成27年11月28日(土) 午前11時

開催場所 いわき市ワシントンホテル 椿山荘

福島県木材青壮年協会

式次第

表彰式

1. 開 会
2. 挨拶
3. 来賓紹介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

記念撮影

出席者名簿 (敬称略)

福島大学人間発達文化学類教授		新 井 浩 (あらい ひろし)
福島県農林水産部林業振興課長		飯 沼 隆 宏 (いいぬま たかひろ)
関東森林管理局磐城森林管理署長		中 澤 文 彦 (なかざわ ふみひこ)
いわき市役所農林水産部林務課 課長補佐		蛭 田 建 一 (ひるた けんいち)
福島民報社いわき支社営業部長		吉 田 順 生 (よしだ のぶお)
福島県木材協同組合連合会専務理事		宗 形 芳 明 (むなかた よしあき)
ラジオ福島いわき支社長		矢 吹 幸 (やぶき みゆき)
福島県木材青壮年協会 会 長		菊 地 輝 生 (きくち てるお)
福島県知事賞	第1部	桑 折 和 真 (こおり かずま)
〃	第2部	高 野 瞳 子 (たかの とうこ)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	八 木 結 南 (やぎ ゆうな)
〃	第2部	小 林 大 真 (こばやし はるま)
関東森林管理局長賞		箭 内 みのり (やない みのり)
いわき市長賞		井 上 喬 平 (いのうえ きょうへい)
福島民報社長賞		渡 邊 快 (わたなべ かい)
福島県木材協同組合連合会長賞		加 藤 慎 也 (かとう しんや)
福島県林業会館理事長賞		富 岡 ゆうな (とみおか ゆうな)
NHK 福島放送局長賞		鈴 木 楓 樹 (すずき かえで)
ラジオ福島社長賞		高 野 晃太郎 (たかの こうたろう)
福島テレビ社長賞		赤 塚 太 一 (あかつか たいち)
福島県木材青壮年協会	第1部	鈴 木 萌 菜 (すずき もな)
福島県木材青壮年協会	第2部	和 田 ほのか (わだ ほのか)

開催の趣旨

目的

再生可能な循環型資源として広く知られている木材は、地球温暖化防止に極めて有効な二酸化炭素の固定の手段としても注目を浴びています。このように優れた特性を持つ木材を実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら、香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感することで、未来を担う子どもたちの感受性を豊かにするお手伝いをしながら木材の利用推進を図ります。

主催等

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・
福島県林業会館・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ

応募資格

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが75 cmを越えないもの。

審査基準

- | | 配点 (100点) |
|----------------------------|-----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優秀であること。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優秀であること。 | 20点 |

経過説明

審査内容

1. 出展作品数 総数613点（21校）
うち、各校より推薦のあった66点について審査した。
2. 審査会 平成27年9月18日いわき市ラトブにおいて次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員長◇

福島大学人間発達文化学類教授

(敬称略)

新井 浩

◇審査委員◇

関東森林管理局磐城森林管理署長

中澤 文彦

福島県林業振興課主任主査

高橋 宏成

福島県教育庁義務教育課指導主事

大石 正文

いわき市役所林務課課長補佐

蛭田 建一

福島民報社いわき支社長

浅倉 哲也

ラジオ福島いわき支社長

矢吹 幸

福島県木材協同組合連合会専務理事

宗形 芳明

福島県木材青壮年協会副会長

高林 大輔



審査結果

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、平成28年2月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、6月11日福井県で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

4. 作品の展示及び展示期間

(1)平成27年9月19日(土)～9月20日(日)

於：ラトブ 6階 セミナー室

(2)平成27年11月28日(土)

於：いわきワシントンホテル「日木青連東北東北地協福島大会」会場

講 評

第40回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長
福島大学人間発達文化学類教授
新 井 浩

第40回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は9月18日、いわき市ラトブで行われました。その感想と講評をおこないます。

会場には皆さんの作品が並べられていて、作品からは皆さんの意欲が伝わってきました。はじめに審査基準の確認をおこなって、審査員全員で意見を出し合い受賞作品を決めていきました。

第1部の最優秀賞に選ばれた桑折和真君こおりかずまの〈ムーンウサギ〉は、輪切りにした円盤をうまく組み合わせ、ウサギのかたちにした物入れです。木が持っている柔らかな風合いがウサギの愛らしさを見事に引き立てています。背中の扉も工夫があって楽しいです。

第2部の最優秀賞に選ばれた高野瞳子さんたかのとうこの〈私のまるい木のおうち〉は、渦を巻く蔓の様子がとても力強い作品で、意気込みが伝わってきます。五つの小部屋の組み合わせ方や内側の丁寧な造りも見応えがありました。

続いて優秀賞に選ばれた各作品について講評します。

八木結南さんやぎゆうなの〈夢のエッグハウス〉は、大小の枝を組み合わせた上に、カンナクズで造ったエッグハウスをのせた作品です。カンナクズの使い方に創意があって、仕上がりが美しく見事でした。

小林大眞君こばやしはるまの〈僕の思うドラゴン立体想像図〉は角材を使って想像上の生き物を造るという思い付きが新鮮でした。角や爪、翼の付け根など細かいところにもこだわりがありますし、全体に動きとまとまりのある作品でした。

箭内みのりさんやないの〈小枝を使ったはちおき〉は木肌を活かした置き台で、自然な質感に好感が持てました。背もたれの曲がった枝の選択や貝殻を装飾に使ったことなど、良いアクセントになっています。

井上喬平君いのうえきょうへいの〈秋のはじまり〉はススキや木の実を配置してその中を複数のトンボが憩う様子を造った作品です。秋の情景が伝わって気持ち良い秋風まで感じる作品でした。

渡邊快君わたなべかいの〈裏磐梯のティラノサウルス〉は枝やマツボックイを逞しい胴や尾に見立てて力強く表現していました。低く構える姿勢も構成が巧みで、動きとまとまりがありました。

加藤慎也君かとうしんやの〈落ちそうなカブトムシ〉は擦れて丸くなった松の皮を使って質感溢れるカブトムシを表現していました。松の皮が、逞しく力強いカブトムシを見事に表していました。

とみおか
富岡ゆうなさんの〈流木トンボ〉は流木、枯れ枝、マツボックイなどで秋を告げるトンボを造った作品です。トンボの足の力強さが印象的で、全体の質感とともに良い雰囲気が出ていました。

すずきかえで
鈴木楓樹君の〈海の流木でつくったカモノハシ〉は水にぬれたカモノハシの様子がうまく伝わる作品でした。流木を寄せ集めて何かに見えてくるという見立ての楽しさをこれからも楽しんで欲しいと思います。

たかのこうたろう
高野晃太郎君の〈精霊たちの住む所〉は木を積み上げて人型の精霊をつくり、ダイナミックに表現された作品でした。中央の大きな精霊の、小枝を使った下半身に迫力がありました。

あかつかたいち
赤塚太一君の〈流木キリン〉は味のある作品でした。単純なようでしっかりとつくり、長く手元に置いておきたい作品になりました。

すずきもな
鈴木萌菜さんの〈きつつき〉は木をつつくキツツキの様子が表現された作品で、羽毛の様子が針葉樹の皮を使って巧みに表現されていました。

わだ
和田ほのかさんの〈将来の夢〉は自然とともに生きる生き方の提案という、木工工作コンクールの中でもたいへん珍しい作品になっていました。既成の素材を省いて考えることでもっと良くなると思いました。

全体の講評にうつります。

このコンクールは、私たちの生活を支えてきた木の文化のすばらしさを子どもたちに伝え、工作を通して子どもたちが成長していくことが大切と考えています。

子どもの頃から自然の風合いを持った木の様々な良さに触れることで、木の文化は受け継がれ、豊かな心情が育ちます。

木工工作を通しては、子どもたちは思いつく力や順番を考える力、うまくいかないことがあっても自分なりに工夫して実現する力が養われます。

こうした力は木工工作の場面だけでなく、仕事や生活の様々な場面で役立ち、仕事や暮らしを円滑に豊かにしてくれます。

今まで知らなかったことを他者から教えられ自分のものにしていく過程はもちろん大切です。

一方で、現在大人の私たちが子どもの頃そうだったように、自ら面白いと思うことに夢中になって取り組み、工夫し、達成していくときに、生きていくために必要な力、困難にぶつかったときに自分なりに乗り越える力が最も身につけてきます。

人から教えられた知識は忘れてしまうことも多いのですが、自分で獲得した力は決して失われません。

これからも木工工作に親しむ機会をたくさん持って、人間と木のごく当たり前の関係を育んでいきましょう。

また来年も、子どもたちが自分の力で考え、自分の手で造った作品をたくさん見たいと思っています。

たくさん子どもたちが、この木工工作コンクールに応募してくれることを強く願っています。

入賞者名簿

(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞 1部

ムーンうさぎ

福島市立野田小学校 3年 桑折和真

福島県知事賞 2部

私のまるい木のおうち

いわき市立勿来第一小学校 6年 高野瞳子

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞1部

夢のエッグハウス

いわき市立勿来第一小学校 4年 八木結南

福島県教育委員会教育長賞2部

僕の思うドラゴン立体想像図

いわき市立好間第一小学校 5年 小林大真

関東森林管理局長賞

小えだを使ったはちおき

いわき市立小名浜第三小学校 3年 箭内みのり

いわき市長賞

秋のはじまり

いわき市立泉小学校 3年 井上喬平

福島民報社長賞

裏磐梯のティラノサウルス

いわき市立平第一小学校 6年 渡邊快

福島県木材協同組合連合会長賞

落ちそうなカブトムシ

いわき市立郷ヶ丘小学校 5年 加藤慎也

福島県林業会館理事長賞

流木とんぼ

いわき市立平第六小学校 2年 富岡ゆうな

NHK福島放送局長賞

海の流木で作ったカモノハシ

いわき市立平第五小学校 1年 鈴木楓樹

ラジオ福島社長賞

精霊たちの住む所

いわき市立勿来第一小学校 4年 高野晃太郎

福島テレビ社長賞

流木キリン

いわき市立小名浜西小学校 3年 赤塚太一

福島県木材青壮年協会会長賞1部

きつつき

いわき市立大野第二小学校 3年 鈴木萌菜

福島県木材青壮年協会会長賞2部

将来の夢

いわき市立中央台東小学校 5年 和田ほのか

入選

福島県木材青壮年協会会長賞

トカゲ

福島市立野田小学校 1年 阿部幸賢

泉北の森公園

いわき市立泉北小学校 3年 神山明

昔の家

いわき市立磐崎小学校 3年 齋藤憂成

鳥の巣の小物入れ

福島市立野田小学校 6年 紺野かずみ

ティッシュボックス

いわき市立平第四小学校 5年 石井颯季

木から生まれた森林カブトムシ

いわき市立入遠野小学校 5年 鈴木一朗

カフェ風黒板

いわき市立好間第四小学校 6年 鈴木樹里

サカナ木きん

いわき市立小名浜第一小学校 5年 大原陽介

流木のイス

いわき市立中央台東小学校 5年 鈴江崇作

未来へ

いわき市立小名浜西小学校 5年 飯塚愛梨

☆☆☆第40回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞



「ムーンうさぎ」
福島市立野田小学校
3年 桑折和真



「私のまるい木のおうち」
いわき市立勿来第一小学校
6年 高野瞳子

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞

関東森林管理局長賞



「夢のエッグハウス」
いわき市立勿来第一小学校
4年 八木結南



「僕の思うドラゴン立体想像図」
いわき市立好間第一小学校
5年 小林大真



「小えだを使ったはちおき」
いわき市立小名浜第三小学校
3年 箭内みのり

いわき市長賞

福島民報社長賞

福島県木連会長賞



「秋のはじまり」
いわき市立泉小学校
3年 井上喬平



「裏磐梯のティラノサウルス」
いわき市立平第一小学校
6年 渡邊快



「おちそうなカブトムシ」
いわき市立郷ヶ丘小学校
5年 加藤慎也

福島県林業会館理事長賞



「流木とんぼ」
いわき市立平第六小学校
2年 富岡 ゆうな

NHK福島放送局長賞



「海の流木で作ったカモノハシ」
いわき市立平第五小学校
1年 鈴木 楓樹

ラジオ福島社長賞



「精霊たちの住む所」
いわき市立勿来第一小学校
4年 高野 晃太郎

福島テレビ社長賞



「流木のキリン」
いわき市立小名浜西小学校
3年 赤塚 太一

福島県木材青壮年協会賞



「きつつき」
いわき市立大野第二小学校
3年 鈴木 萌菜



「将来の夢」
いわき市立中央台東小学校
5年 和田 ほのか